

令和 3 年 度

事業概要



さいたま市食肉衛生検査所

目次

第1章 総説	4
1 食肉衛生検査所の沿革	5
2 組織	5
(1) 市行政組織における位置付け(令和4年3月31日現在)	5
(2) 職員構成(令和4年3月31日現在)	5
3 庁舎の概要	6
(1) 名称 さいたま市食肉衛生検査所	6
(2) 案内図	6
(3) 所内平面図	6
4 主要検査機器一覧	7
第2章 食肉衛生検査事業の概要	9
1 と畜検査	10
(1) 所管と畜場	10
(2) と畜検査の流れ	10
(3) と畜場開場日数	10
(4) と畜検査頭数	10
(5) 精密検査検体数	11
2 と畜関連検査	11
(1) 家畜伝染病予防対策	11
(2) 搬入枝肉の検査状況	11
(3) その他	12
3 食鳥検査	12
(1) 食鳥処理場施設数(令和4年4月1日現在)	12
(2) 食鳥処理場巡回指導状況	12
(3) 確認状況報告	12
(4) 届出食肉販売業	12
4 と畜場及び食鳥処理場の衛生対策	13
(1) と畜場及び食鳥処理場の衛生検査	13
(2) 牛の特定危険部位(SRM)処理の作業確認の実施	13
(3) 食肉衛生月間	13
5 その他許可・証明等	14
(1) と畜場外への持ち出し許可(令和4年3月31日現在)	14
(2) 証明書の発行	14
6 普及啓発事業	14
(1) 視察、見学及び学生実習等の受入れ状況	14
(2) ホームページによる情報公開	14
第3章 統計	15
1 と畜検査頭数	16

(1) と畜検査頭数の推移	16
(2) 生体産地別と畜検査頭数.....	17
(3) 月別と畜検査頭数.....	18
(4) と畜検査獣畜の種別	19
2 とさつ解体の禁止又は廃棄したものの原因.....	20
3 病類表	21
(1) 全部廃棄	21
(2) 一部廃棄	22
4 精密検査内訳	25
参 考	26

第 1 章 総説

1 食肉衛生検査所の沿革

平成 13 年 5 月 「さいたま市」発足

平成 13 年 11 月 「さいたま市区の設置等に関する条例」を制定

平成 14 年 4 月 政令指定都市移行に向け、と畜検査業務が埼玉県からさいたま市に移管され、さいたま市保健所食肉衛生検査所を設立

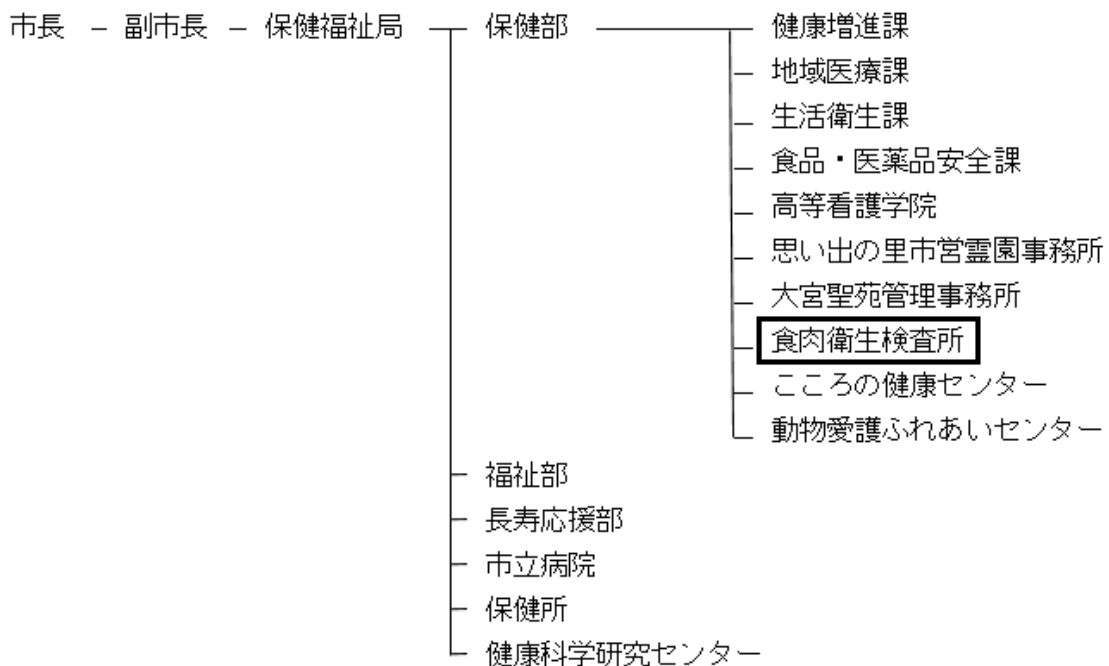
平成 14 年 11 月 庁舎竣工

平成 15 年 4 月 政令指定都市「さいたま市」の発足に伴い、さいたま市保健福祉局保健所食肉衛生検査所となり、その後、保健部食肉衛生検査所となる。

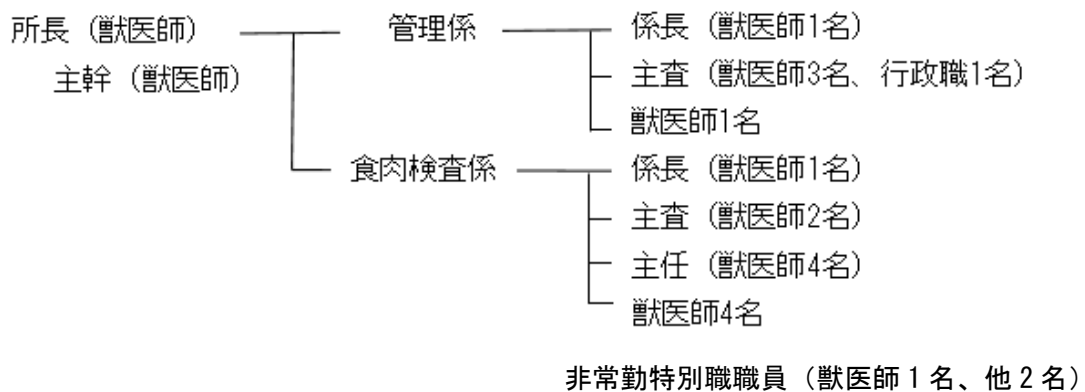
2 組織

(1) 市行政組織における位置付け(令和 4 年 3 月 31 日現在)

(さいたま市機構図抜粋)



(2) 職員構成 (令和 4 年 3 月 31 日現在)



3 庁舎の概要

(1) 名称 さいたま市食肉衛生検査所

所在地 〒338-0001 さいたま市中央区上落合5丁目14番21号

電話 048-851-4100 FAX 048-855-0577

E-mail shokuniku-eisei-kensa@city.saitama.lg.jp

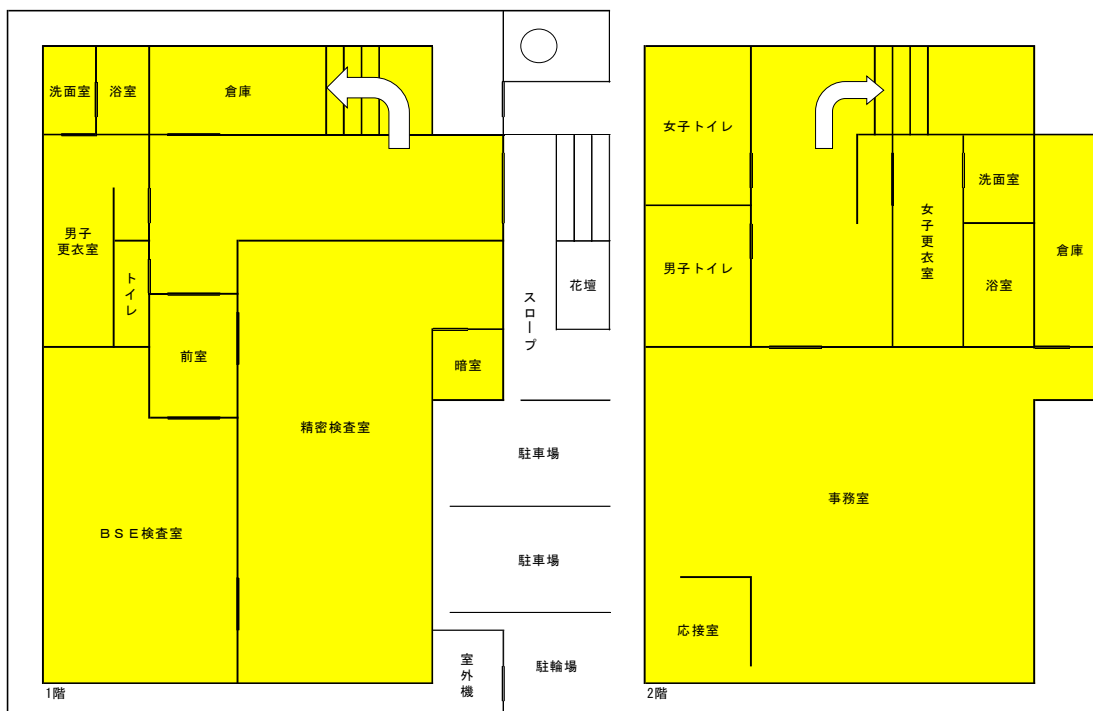
(2) 案内図

● 交通機関(電車の場合)

- ① 大宮駅西口より、線路沿いを徒歩約15分
- ② さいたま新都心駅西口より、アリーナ方面に徒歩約10分
- ③ 北与野駅北口より、国道17号沿いを徒歩約10分



(3) 所内平面図



1階 精密検査室：41.9㎡
 BSE検査室：36.8㎡
 2階 事務室：75.2㎡

4 主要検査機器一覧

検査機器名	規 格
マイクロプレートリーダー システム	BioRad モデル 680
電子天秤	A&D FX-500i A&D FX-300i
パソコン	TOSHIBA ノートパソコン PB252JPB182J7X
システム実体顕微鏡	ニコン SMZ1500 型
生物顕微鏡	ニコン E2T-C(E200)
蛍光顕微鏡セット	Nikon E600 シリーズ
実体顕微鏡 ファーブルフォト	ニコン 携帯型
煮沸消毒器ステンレス製	都市ガス式 51820
オートクレーブ	トミー精工社 LSX-300 LSX-500 平山製作所 HV-50
純水製造装置一式	メルク Elix 5 UV
安全キャビネット (クラス II タイプ A2)	サーモ 1300 NSF 適合
アルミブロック恒温槽	タイトック DTU-2C
小型インキュベーター	アズワン 120-5
ホモジナイザー	ストマッカー400 サーキュレーター
乾熱滅菌セット	アドバンテック
マルチビーズショッカー	安井器械 MB1024BS
卓上小型遠心機	KUBOTA2010
ヘマトクリット遠心機	コクサン H=1200C
薬用冷蔵ショーケース	パナソニック MPR-312DCN-PJ
UV デシケーター	アズワン UVLH-400
フード付きウォーターバス	GK-0086-10
卓上振とう器	東京硝子器械 FNX-220
プレートインキュベーター	アルプ ITD-20E 型
冷凍冷蔵庫	福島工業 ARD-122PM
低温インキュベーター	福島工業 FMU-0522
冷却遠心機	コクサン H-15FR
ローター	クボタ AF2724A/AF5004
マイクロプレートウォッシャー	ハイドロフレックス M8/Ch2
プログラムインキュベーター	アズワン CN-40A
ウォーターバスシェイカー	東京理化器械 NTS-4000B
クールブロックバス	アズワン 120-5

検査機器名	規 格
ヒートブロック	タイテックアルミブロック DTU-2B ドライサーモユニット DTU-2C
保冷库	パナソニック MPR-215F-PJ
超低温フリーザー	日本フリーザー CLN32U 他
迅速乾燥装置	アズワン SPH-10N
製氷機	星崎 FM-120K
アルミブロック	タイラック AL-0836
往復振とう機	アズワン SRR-2
冷凍冷蔵庫	パナソニック MPR-215F-PJ
リアルタイム PCR 装置一式	タカラバイオ Thermal Cycler Dice Real Time System II (TP900)
パソコン	DELL AI25T6WHBW
ノートパソコン	DELL NI356WHBW
生物顕微鏡	オリンパス CX43
クール・ホットブロックバス	ASCH-201
クール・ホットブロックバス用ブロック	M96-Elisa
卓上冷却遠心機	KUBOTA 3520
アングルロータ	KUBOTA MA-2724
薬用保冷库	パナソニック MPR-414FS-PJ
インキュベーター	パナソニック MIR-254SPJ
マルチミキサー	MIX-101
パーソナルインキュベーター	PIC100
遠心機	Merck XX42CFORT
小型インキュベーター	アズワン IC-150MA
デシケーター	アズワン SCD-2H
マイクロ冷却遠心機	KUBOTA 3700
インキュベーター	MIR-154-PJ
ゲル撮影装置	LED100

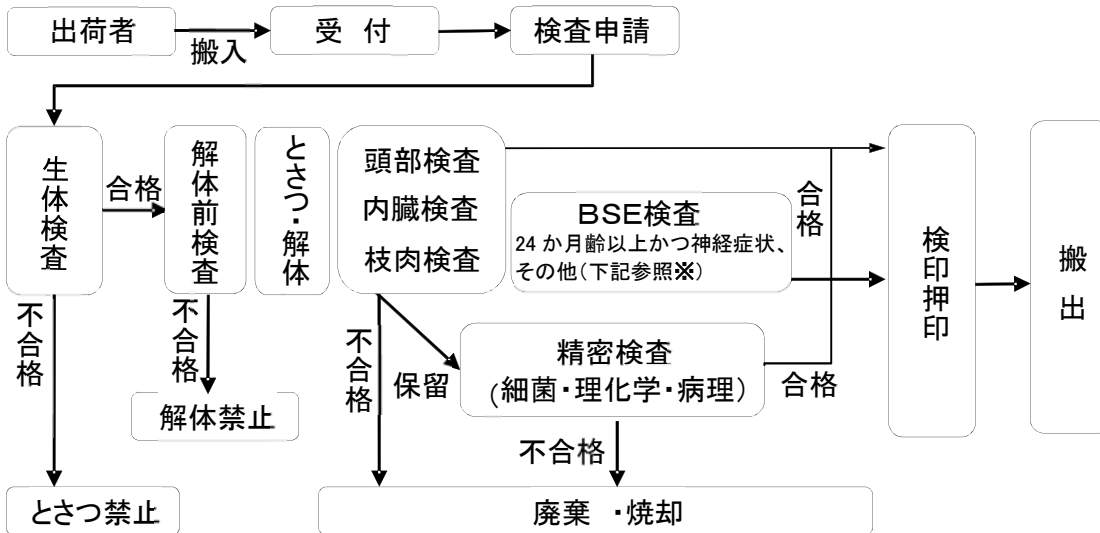
第2章 食肉衛生検査事業の概要

1 と畜検査

(1) 所管と畜場

設置者	と畜場名	所在地
さいたま市	さいたま市と畜場	さいたま市大宮区

(2) と畜検査の流れ



※ 平成 29 年 4 月 1 日より健康牛への BSE 検査が廃止され、24 か月齢以上の牛のうち、生体検査時に BSE 特有の神経症状の疑われる牛、又は全身症状を呈しかつその原因が明らかでない牛に対してのみ、エライザ法による BSE スクリーニング検査を行うことになりました。
スクリーニング検査で陽性になったものは、国の専門機関に検体を送り、確認検査を実施します。確認検査で陽性と判断された場合には、専門家会議による確定診断を行います。

(3) と畜場開場日数

242日

(4) と畜検査頭数

と畜場に搬入される全ての獣畜について、と畜検査を実施しました。

(単位：頭)

	牛	とく	馬	こま	豚	めん羊 山羊	合計
普通畜	9,248	42	0	5	46,469	0	55,764
病畜	161	0	0	0	8	0	169
合計	9,409	42	0	5	46,477	0	55,933

(5) 精密検査検体数

と畜検査において肉眼で判定が難しい場合には、より詳しい検査を行い総合的に診断しました。

(単位：検体)

	疑疾病名	牛	とく	馬	豚	合計
微生物学	敗血症	20	0	0	262	282
	豚丹毒				361	361
理化学	高度の黄疸	34	0	0	4	38
	尿毒症	7	0	0	1	8
	牛伝染性リンパ腫 (rPCR)	88	0			88
病理学	腫瘍	20 (20)	0	0	15 (15)	35 (35)
	牛伝染性リンパ腫	347	0			347
BSE 検査		0	0			0
合計		494 (7)	0	0	357 (24)	851 (31)

※ () 内はさいたま市健康科学研究センター依頼検査の内訳

2 と畜関連検査

(1) 家畜伝染病予防対策

精密検査により、家畜伝染病予防法に基づく疾病を発見した際に家畜保健衛生所に届出を行いました。(確定診断日による集計)

(単位：頭)

	牛	とく	馬	豚	合計
牛伝染性 リンパ腫	93	0			93
豚丹毒				1	1
合計	93	0	0	1	94

(2) 搬入枝肉の検査状況

さいたま市食肉中央卸売市場に枝肉で搬入されるものについて食品衛生法に基づく検査を実施しました。

(単位：頭)

種別	牛	とく	馬	豚	めん羊 山羊	合計
搬入枝肉	0	0	0	2,028	0	2,028

(3) その他

さいたま市食肉中央卸売市場で販売された卸売物品について、肉質の検査を行いました。

(単位：頭)

種 別	牛	とく	馬	豚	合計
実施数	8	0	0	0	8

3 食鳥検査

(1) 食鳥処理場施設数（令和3年4月1日現在）

(単位：施設)

■大規模食鳥処理場（年間処理羽数30万羽超）		0
■認定小規模食鳥処理場 （年間処理羽数30万羽以下）	①とさつから解体まで一貫処理	0
	②食鳥と体を仕入れ、解体処理	2

(2) 食鳥処理場巡回指導状況

市内食鳥処理場を定期的に巡回し、技術指導を行いました。

認定小規模処理場施設（再掲）	2施設
巡回及び監視指導	3件

(3) 確認状況報告

食鳥処理衛生管理者が確認規程に従って実施した確認状況の報告を受け付けました。

(単位：羽)

処理した食鳥	80
基準に適合	80
基準に不適合	0

(4) 届出食肉販売業

脱羽後検査に合格した食鳥と体を譲り渡すための届出を行った食肉販売業者を定期的に巡回し、衛生指導を行いました。

届出食肉販売業	1施設
巡回及び監視指導	1件

4 と畜場及び食鳥処理場の衛生対策

(1) と畜場及び食鳥処理場の衛生検査

施設の衛生管理や衛生的な処理作業の確認を目的とした検査、および食肉中の有害残留物質等についての検査を実施（検査の一部は、さいたま市健康科学研究センターに依頼）し、これらの結果に基づき衛生指導を行いました。

	項目	検体数
細菌検査	・牛、豚の腸管内微生物保有状況調査	腸管出血性大腸菌 0157:75 検体 サルモネラ：75 検体
	・牛肝臓微生物検査	腸管出血性大腸菌 0157:80 検体
	・食鳥処理施設の細菌数検査	一般細菌：5 検体／腸内細菌科菌群：5 検体
	・食肉輸送車ふき取り検査 ^{※1}	大腸菌群：0 検体
	・牛枝肉および施設ふきとりモニタリング検査	腸管出血性大腸菌 0157:132 検体 (牛枝肉：72 検体、施設：60 検体)
	・牛枝肉の細菌数検査 ^{※2}	一般細菌：60 検体／腸内細菌科菌群：60 検体
理化学検査	・豚枝肉の細菌数検査 ^{※2}	一般細菌：60 検体／腸内細菌科菌群：60 検体
	・動物用医薬品等の適正使用に係る検査 (残留農薬含む)	牛（筋肉、腎臓、肝臓） 60 検体：12,420 項目
	・食肉中残留有害物質のモニタリング検査 ^{※2}	牛 10 検体／豚 10 検体：985 項目

※1 新型コロナウイルス感染症対策のため中止

※2 国の通知に基づく検査等（外部検証を含む）

(2) 牛の特定危険部位（SRM）処理の作業確認の実施

SRM の除去・廃棄及び清掃等の作業について、適正性を確認しました。

（単位：回）

作業名	確認回数
脊柱除去作業	88
脊髄除去作業	970
脊髄以外の SRM 除去作業	436

(3) 食肉衛生月間

新型コロナウイルス感染症対策の観点から、参集型の講習会等はありませんでした。

5 その他許可・証明等

- (1) と畜場外への持ち出し許可（令和4年3月31日現在）
と畜場法第14条第3項第2号の規定に基づき、以下の施設に対して持ち出し許可をしました。

対象部位	許可施設	所在地
皮	橋本産業株式会社	埼玉県熊谷市

- (2) 証明書の発行
関係事業等からの証明願に基づき証明書の発行を行いました。

（単位：件）

証明書の名称	発行数
と畜検査証明書	30

6 普及啓発事業

- (1) 視察、見学及び学生実習等の受入れ状況
国及び他自治体からの視察・見学希望者はいませんでした。
- (2) ホームページによる情報公開
さいたま市のホームページ上で食肉衛生検査所の概要について、情報公開を行い、随時更新しています。（アドレス：<https://www.city.saitama.jp>）

第 3 章 統計

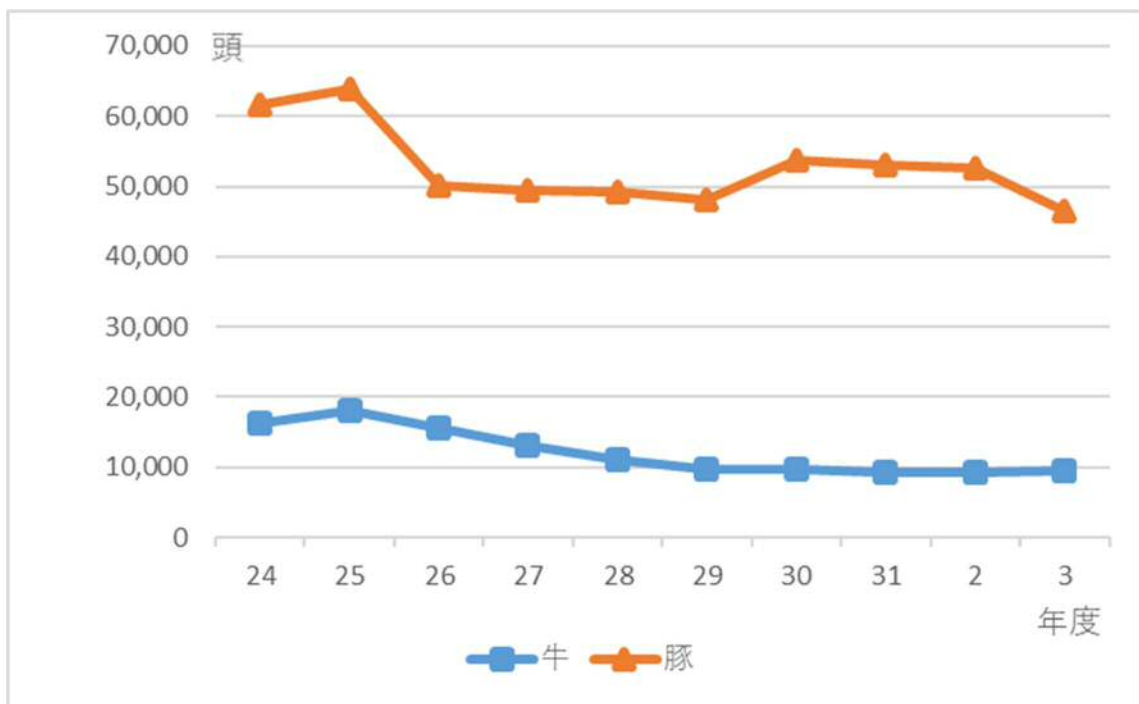
1 と畜検査頭数

(1) と畜検査頭数の推移

牛のと畜頭数は昨年度とほぼ同数でした。8年前と比較するとほぼ半分の頭数となっています。
豚のと畜頭数は近年5万頭台で推移していましたが、今年度は若干減少しました。

(単位：頭)

年度(平成/令和)	牛	とく	馬	豚	めん羊・山羊
24	16,158	79	3	61,558	0
25	18,063	55	0	63,790	0
26	15,470	99	2	50,065	0
27	13,126	48	2	49,529	0
28	10,978	46	3	49,255	0
29	9,693	41	3	48,021	0
30	9,624	40	1	53,677	0
31	9,200	45	4	53,115	0
2	9,186	36	1	52,503	0
3	9,409	42	5	46,477	0



(2) 生体産地別と畜検査頭数

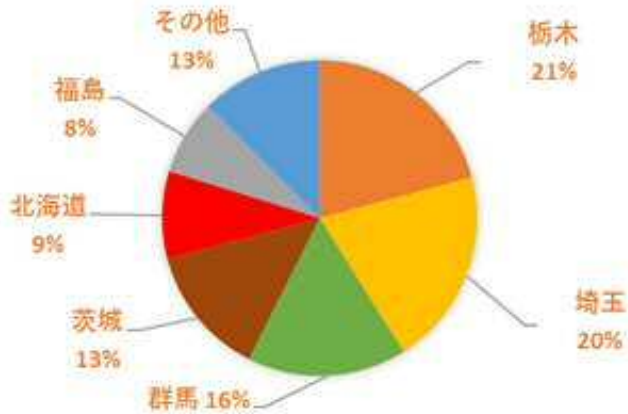
牛については栃木県が約 21%で最も多く、次いで埼玉県、群馬県の順でした。豚については埼玉県が約 43%で最も多く、栃木県は約 41%でした。

牛は関東地方を中心に全国各地からの入荷がありましたが、豚は埼玉県および栃木県がほとんどを占めました。

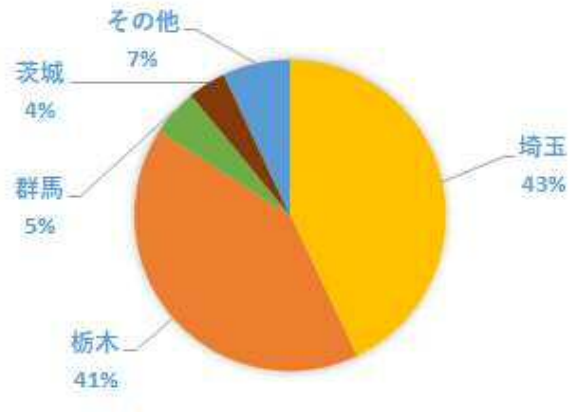
産地	牛		とく	こま	豚		小計
	頭数	(%)			頭数	頭数	
北海道	844	(8.97%)	6	0	0	(0.00%)	850
青森	6	(0.06%)	0	0	0	(0.00%)	6
岩手	179	(1.90%)	0	0	1,275	(2.74%)	1,454
宮城	0	(0.00%)	0	0	60	(0.13%)	60
秋田	81	(0.86%)	0	0	19	(0.04%)	100
山形	5	(0.05%)	0	0	0	(0.00%)	5
福島	726	(7.72%)	1	0	837	(1.80%)	1,564
茨城	1,260	(13.39%)	8	0	1,855	(3.99%)	3,123
栃木	1,960	(20.83%)	8	0	19,123	(41.15%)	21,091
群馬	1,541	(16.38%)	6	0	2,281	(4.91%)	3,828
埼玉	1,903	(20.23%)	8	5	19,958	(42.94%)	21,874
千葉	151	(1.60%)	3	0	823	(1.77%)	977
東京	231	(2.46%)	2	0	1	(0.00%)	234
神奈川	75	(0.80%)	0	0	15	(0.03%)	90
新潟	179	(1.90%)	0	0	0	(0.00%)	179
富山	9	(0.10%)	0	0	0	(0.00%)	9
山梨	2	(0.02%)	0	0	99	(0.21%)	101
長野	135	(1.43%)	0	0	0	(0.00%)	135
岐阜	1	(0.01%)	0	0	0	(0.00%)	1
静岡	1	(0.01%)	0	0	131	(0.28%)	132
愛知	6	(0.06%)	0	0	0	(0.00%)	6
三重	6	(0.06%)	0	0	0	(0.00%)	6
鳥取	2	(0.02%)	0	0	0	(0.00%)	2
島根	90	(0.96%)	0	0	0	(0.00%)	90
宮崎	12	(0.13%)	0	0	0	(0.00%)	12
鹿児島	3	(0.03%)	0	0	0	(0.00%)	3
沖縄	1	(0.01%)	0	0	0	(0.00%)	1
合計	9,409	(100.00%)	42	5	46,477	(100.00%)	55,933

※受付から出荷までに年度をまたぐ場合、と畜検査頭数と合計数の差が生じることがあります。

産地別と畜検査割合（牛）



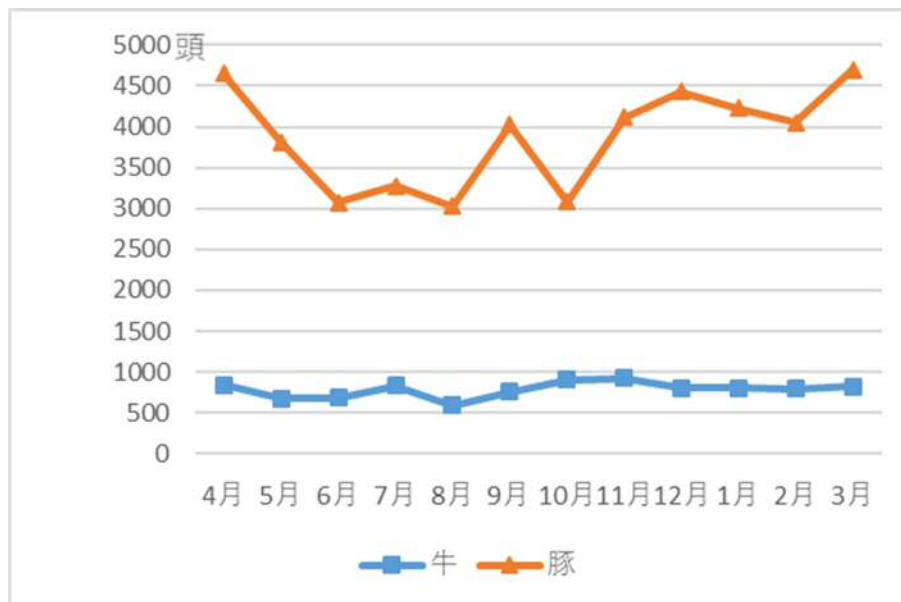
産地別と畜検査割合（豚）



(3) 月別と畜検査頭数

(単位：頭)

	牛	とく	馬	こま	豚
4月	842	6	0	0	4,655
5月	669	2	0	0	3,814
6月	681	5	0	0	3,076
7月	830	0	0	0	3,273
8月	587	3	0	0	3,029
9月	752	6	0	0	4,025
10月	905	4	0	0	3,080
11月	926	6	0	3	4,118
12月	800	3	0	2	4,427
1月	804	3	0	0	4,225
2月	795	3	0	0	4,054
3月	818	1	0	0	4,701



(4) と畜検査獣畜の種別

(単位：頭)

牛			豚	
肉用種	未經産	2,149	普通畜(6ヶ月)	43,418
	経産	735	大貫 (母豚、種豚)	3,059
乳用種	未經産	271		
	経産	6,254		

※受付から出荷までに年度をまたぐ場合、と畜検査頭数と合計数の差が生じることがあります。

2 とさつ解体の禁止又は廃棄したものの原因

(単位：頭)

	廃棄実頭数	細菌病						ウイルス・リケッチア病	原虫病	寄生虫病			その他の疾病							計							
		炭疽	豚丹毒	サルモネラ症	結核病	ブルセラ病	破傷風	放線菌症	その他	豚コレラ	その他	トキソプラズマ病	その他	ジストマ病	のう虫病	その他	膿毒症	敗血症	尿毒症		黄疸	水腫	腫瘍	中毒諸症	炎症又は炎症産物による汚染	変性又は萎縮	その他
牛	禁止	0																									0
	全部廃棄	477							9						50	1	2	4			185	81		142	3		477
	一部廃棄	8,433										1								377			10,874	4,322	2,679		18,253
とく	禁止	0																									0
	全部廃棄	3																		1					2		3
	一部廃棄	30																		4				46	7		57
馬 (こまを含む)	禁止	0																									0
	全部廃棄	0																									0
	一部廃棄	4																						8			8
豚	禁止	0																									0
	全部廃棄	123	1												71	22		1				2		4	22		123
	一部廃棄	46,131						8												84				44,938	1,754	23,959	70,743
めん羊	禁止	0																									0
	全部廃棄	0																									0
	一部廃棄	0																									0
山羊	禁止	0																									0
	全部廃棄	0																									0
	一部廃棄	0																									0

3 病類表

(1) 全部廃棄

ア 概要

検査総頭数に対する全部廃棄の割合は、牛 5.1%、とく 7.1%、豚 0.3%でした。

(単位：頭)

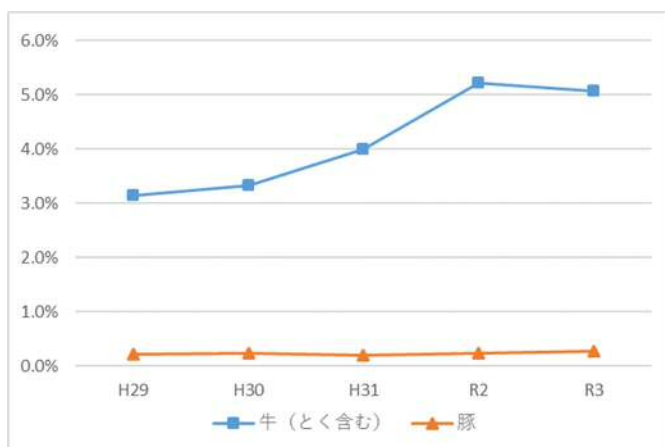
疾病名	牛	とく	馬	豚	合計
豚丹毒				1	1
敗血症	1	0	0	22	23
膿毒症	50(6)	0	0	71	121
尿毒症	2	0	0	0	2
高度の黄疸	4(1)	0	0	1	5
高度の水腫	185(16)	1	0	0	186
全身性腫瘍	81(8)	0	0	2	83
全身性筋炎	142(75)	0	0	4	146
全身性筋変性	3	2	0	22	27
その他	9(1)	0	0	0	9
小計	477	3	0	123	603

※ () 内は病畜の頭数。 「その他」：牛伝染性リンパ腫 9。

イ 年度別と体全部廃棄状況

(単位：頭)

年度	牛(とく含む)		豚	
	全部廃棄頭数	廃棄率(%)	全部廃棄頭数	廃棄率(%)
H29	306	3.14%	101	0.210%
H30	321	3.32%	121	0.225%
H31	369	3.99%	105	0.198%
R2	481	5.22%	119	0.227%
R3	477	5.07%	123	0.265%



(2) 一部廃棄

[牛]

疾病名		年計	
呼吸器総数		4,352	
呼吸器	肺炎	113	
	肺胸膜炎	10	
	肺膿瘍	49	
	肺気腫	3,114	
	異吸肺	57	
	血吸肺	2	
	胸膜炎	100	
	横隔膜水腫	51	
	横膜炎	613	
	横隔膜膿瘍	225	
	その他	18	
	消化器総数		9,239
	消化器	皮様囊腫	24
胃炎		437	
胃膿瘍		144	
胃周囲脂肪壊死		25	
腸炎		230	
腸管膜脂肪壊死		106	
肝炎		705	
肝膿瘍		409	
胆管炎		139	
肝包膜炎		1,320	
おがくず肝		3,387	
脂肪肝		221	
肝巣状脂肪化		24	
肝色素変性		222	
富脈斑		1,114	
うっ血肝		37	
肝蛭症		1	
腹膜炎		7	
胃腸炎		259	
胸腹膜炎		8	
内臓水腫		183	
その他		237	

疾病名		年計
造血・循環器総数		885
造血・循環器	心水腫	41
	心外膜炎	618
	心筋炎	14
	心膿瘍	1
	心色素変性	136
	心出血	36
	その他	39
泌尿・生殖器総数		2,649
泌尿・生殖器	腎炎	1,506
	腎膿瘍	24
	腎周囲脂肪壊死	60
	腎色素変性	83
	嚢胞腎	931
	乳房炎	9
その他	36	
運動器総数		3,884
運動器	筋水腫	76
	筋炎	3,307
	筋膿瘍	221
	筋変性	6
	関節炎	115
	脱臼炎症	24
	骨折炎症	28
	骨膿瘍	62
	放線菌症	0
その他	45	

牛疾病総数 21,009

[とく]

疾病名		年計
呼吸器総数		5
呼吸器	肺炎	1
	肺膿瘍	1
	胸膜炎	1
	横隔膜水腫	2
	その他	0
消化器総数		29
消化器	胃炎	1
	胃腸炎	9
	腸炎	1
	肝炎	6
	肝包膜炎	3
	おがくず肝	6
	脂肪肝	1
	内臓水腫	1
	その他	1

疾病名		年計
造血・循環器総数		2
造血・循環器	心外膜炎	1
	その他	1
泌尿・生殖器総数		7
泌尿・生殖器	腎炎	7
	その他	0
消化器総数		14
運動器	筋炎	9
	関節炎	3
	脱臼炎症	1
	骨折炎症	1
	その他	0

とく疾病総数 57

[馬・こま]

疾病名		年計
呼吸器総数		1
	横隔膜炎	1
消化器総数		4
	胃炎	1
	腸炎	1
	肝胞膜炎	2

馬疾病総数 5

[豚]

疾病名		年計
呼吸器総数		43,775
呼 吸 器	血吸肺	22,877
	肺炎	18,646
	肺胸膜炎	547
	肺膿瘍	290
	胸膜炎	1,411
	その他	4
消化器総数		18,576
消 化 器	胃腸炎	773
	胃炎	74
	肝炎（間質性）	7,829
	肝炎（実質性）	1,192
	肝包膜炎	6,136
	肝色素変性	289
	脂肪肝	142
	肝硬変	8
	脾臓水腫	27
	腸炎	413
	抗酸菌症	8
	腸気腫	16
	胸腹膜炎	1,462
	腹膜炎	20
	その他	187

疾病名		年計
造血・循環器総数		890
造 血 器 ・ 循 環 器	心外膜炎	606
	その他	284
泌尿・生殖器総数		1,153
生 泌 殖 尿 器 ・	腎炎	599
	嚢胞腎	453
	腎膿瘍	14
	その他	87
運動器総数		4,960
動	筋炎	3,369
	筋膿瘍	1,054
	筋水腫	32
	筋変性	24
	関節炎	208
	関節膿瘍	22
	骨折炎症	60
	骨膿瘍	155
	脱臼炎症	7
	その他	29

豚疾病数 69,354

4 精密検査内訳

	項 目	頭数	検体数(項目数)	
			内訳	
微生物検査	・ 監視指導計画に基づく検査	422	487	
	牛枝肉微生物検査	60	60	一般細菌数 60 検体 腸内細菌科菌群数 60 検体
	豚枝肉微生物検査	60	60	一般細菌数 60 検体 腸内細菌科菌群数 60 検体
	腸管内由来微生物保有調査	150	150	
	食鳥と体及び施設等における微生物検査	—	5	一般細菌数 (施設) 5 検体 腸内細菌科菌群数 (施設) 5 検体
	食肉輸送車荷台拭き取り検査	—	0	
	モニタリング検査 (O157)	72	132	牛枝肉 72 検体 施設 60 検体
	牛肝臓微生物検査	80	80	
	・ 疾病診断	103	666	牛 3 頭 22 検体 豚 100 頭 644 検体
	小計	525	1153	
理化学・遺伝子検査	・ 国の通知に基づく収去検査 (モニタリング) (動物用医薬品)	10	20	牛 10 検体 豚 10 検体
	・ と体全部廃棄からのモニタリング (適正使用に係る検査)	16	60	牛 60 検体
	・ 疾病診断 (スポットケム)	45	46	牛 40 頭 41 検体 豚 5 頭 5 検体
	(PCR (牛伝染性リンパ腫))	88	88	牛 88 頭 88 検体
	・ 事故品 (異臭)	0	0	牛 0 頭 豚 0 頭
	・ 調査研究 (と畜場に搬入される牛及び豚の <i>Escherichia albertii</i> 保有状況調査について)	80	80	
	小計	239	294	
病理学検査	牛伝染性リンパ腫	93	347	
	・ 疾病診断 上記以外の疾病疑い (健科研へ依頼)	9	70	牛 4 頭 55 検体 豚 5 頭 15 検体
	・ 事故品	8	8	牛 8 頭 豚 0 頭
	小計	110	425	
	合計		1,872	

参 考

<と畜場の概要>

(令和4年4月1日現在)

名 称	さいたま市と畜場
所在地	さいたま市大宮区吉敷町 2-23
電話番号	048-644-2929
営 業 者	市 営(経済局農業政策部)
許可年月日	昭和36年12月15日
年間開場日数	242日(令和3年度)
とさつ制限頭数	大動物 250頭 小動物 1,000頭

1 敷地面積 [16,031m²]

2 建物延べ面積 [7,722m²]

3 主要施設

(1) けい留場(鉄筋コンクリート造 2階建) [1,633m²]

(けい留所収容能力:大動物 160頭、小動物 800頭)

<設備> 生体洗浄装置、生体計量器、円形サークル、レストライニングコンベア、
生体追込み装置

(2) と殺解体室 [888m²]

(解体処理能力:大動物 250頭、小動物:1,000頭)

<設備> ノッキングベン、不動化装置、サイドフーラー、ダウフーラー、脊髓吸引装置、 枝肉自動洗
浄装置 2基、枝肉殺菌装置、インクラインコンベア 4基、 前処理コンベア、スキナー 2
基、背割鋸 ほか

(3) 内臓処理室 [500m²]

<設備> 頭、足、皮、内臓各シュート ほか

(4) 病畜と室 [96m²]

<設備> トロツハ - 1基、ホイス 1基、背割電鋸、検査台、冷蔵庫 1室

(5) 隔離室 [64m²]

- (6) 卸売場 [98m²]
〈設備〉 せり機械装置、冷房設備 ほか
- (7) 懸肉室(小動物 10°C冷却室・通路を含む) [762m²]
〈設備〉 テンシタル型計量機 4 基 ほか
- (8) 枝肉出荷ホ-ム [75m²]
〈設備〉 トロッハ- 6 基、インクラインコンベア 1 基
- (9) 冷蔵庫(7 室、卸売業者冷蔵庫含む) [738m²]
(冷凍能力 342,000Kcal : 大動物 350 頭、小動物 500 頭)
〈設備〉 スクリュー式冷凍機 2 基、空冷式ユニット冷凍機 3 基
- (10) 電気、機械室(契約電力 1,200KW) [410m²]
〈設備〉 変電室 2 ヶ所、キュービクル 3 基、中央監視盤 1 面
- (11) 管理事務所 [300m²]
- (12) 検査員室 [100m²]
- (13) 卸売業者事務所(出荷者控室を含む) [566m²]
- (14) 食堂(買参人休憩所を含む) [99m²]
- (15) 汚水処理施設(活性汚泥処理方式) [1,400t/日]

必要経費一覧

(令和4年4月1日現在)

種 別			と畜場 使用料	解体料	と畜検査 手数料	格付料	合 計	
牛	未經産		¥4,206	¥4,180	¥700	¥567	¥9,653	
	経産			¥6,380			¥11,853	
	病畜			¥8,470			¥13,943	
馬	普通畜		¥2,776	¥6,380	¥700		¥9,856	
	病畜			¥8,470			¥11,946	
子牛	普通畜		¥2,283	¥1,045	¥300		¥3,628	
	病畜			¥1,705			¥4,288	
子馬	普通畜		¥853	¥1,045	¥300		¥2,198	
	病畜			¥1,705			¥2,858	
豚	普通畜		枝肉 100 k g 未満	¥853	¥1,045	¥300	¥110	¥2,308
			枝肉 100 k g 以上	¥1,227	¥2,090			¥3,727
	病畜		枝肉 100 k g 未満	¥853	¥1,705			¥2,968
		枝肉 100 k g 以上	¥1,227	¥3,245	¥4,882			
めん羊 山羊	普通畜		¥479	¥1,045	¥300		¥1,824	
	病畜			¥1,265			¥2,044	

令和4年4月1日 さいたま市食肉衛生検査所発行